

■黒板勝美 歴史学者。草創期の日本古文書学を体系化，多くの後進を育成し，国史学の興隆を先導した。

くろいたかつみ

佐賀の乱・1874= 長崎県彼杵郡下波佐見村(東彼杵郡波佐見村)で，大村藩士族黒板要平の長男に生まれる。

明治14年政変1881= 7歳：

岩倉具視没・1883= 9歳：

帝国憲法発布1889=15歳：

尊皇派志士で明治政府で地位を得た郷党の名士渡辺昇・清兄弟の知遇を得て，その書生となる。

大本教・・・1892=18歳：

第五高等学校を経て，

日清戦争始・1894=20歳：

白馬会・・・1896=22歳：_帝国大学文科大学国史科を卒業。直ちに大学院に入って古文書学の研究に従う。

また，田口卯吉が編集出版しつつあった「国史大系」の校訂に従事，その中心となって働く。

田中正造直訴1901=27歳：_東京帝国大学史料編纂員を命ぜられ，以後「大日本古文書」の編纂を主宰，

教科書疑獄・1902=28歳：_文科大学講師を嘱託せられる。この年，英字新聞でエスペラント語の存在を知ると，独学して上達，

日比谷公園・1903=29歳：_論文「日本古文書様式論」まとまる。

日露戦争終・1905=31歳：_*東京帝国大学助教授兼史料編纂官に任じ，「日本古文書様式論」の論文により文学博士号を受ける。

満鉄発足・・・1906=32歳：_〔日本エスペラント協会〕を設立，事務所を自宅に置いて幹事長として切り回す一方，堺利彦らとも協同。

博物館活動から史蹟遺物保存問題に関心を抱くようになり，その研究のため，

アヲキ創刊・1908=34歳：_*主著「国史の研究」刊行後，欧米各国に留学，その間，ドレスデンでの万国エスペラント大会に初めての日本人代表として参加，ザメンホフとも交歓し，その後も欧米各地でエスペランティストと交流したほか，万国平和会議などにも出席。その後，「国史の研究」は増刷を重ね，研究入門書として揺ぎ無い地位を確保。

韓国併合・・・1910=36歳：_帰国。

大逆事件判決1911=37歳：_「南北朝正閏論争」では師の三上参次や同級の喜田貞吉に反対して南朝正統論を主張し，〔大日本国体擁護団〕に参加して講師を務め，歴史学者として唯一政治家と並び，右翼的歴史観の源流となって行く一方，留学の旅記「欧米文明記」では開明的なところも見せる。

明治天皇没・1912=38歳：_以降，「上古史の評論的研究」と題する特色ある講義を続ける一方，史蹟遺物保存に対する政府の施策が無いことを批判，その後超えるもののない体系的論述「史蹟遺物保存に関する意見書」を発表。

ベルリン条約・1919=45歳：_ようやく史蹟名勝天然記念物保存法が成立。史料編纂官兼東京帝国大学教授となり，

大暴落・・・1920=46歳：_教授専任となる。

原敬首相暗殺1921=47歳：

_林省の「日本林制史資料」，朝鮮総督府の「朝鮮史」編修の企画指導にあたる一方，国宝保存会，史蹟名勝天然記念物調査会，重要美術品等調査委員会などの委員など，政府の文化財保存体制に大きく貢献，

関東大震災・1923=49歳：_震災で破壊された帝室博物館の復興にもその中心となって活躍した。

護憲三派圧勝1924=50歳：_臨時御歴代史実審査委員会の委員となって長慶天皇の即位を明らかにし，同年臨時東山御文庫取調掛の嘱託となって御物の整理に尽力。

治安維持法・1925=51歳：_「国体新論」，

日本時代始・1926=52歳：_*主任教授となって名実ともに国史研究室を主導，

金融恐慌・・・1927=53歳：_1年間海外留学。

共産党事件・1928=54歳：

世界恐慌・・・1929=55歳：_〔(新訂増補)国史大系〕の校訂出版に着手し，昭和の定本としての史籍の普及を成しとげた。

満州事変・・・1931=57歳：

_晩年独力で日本古文化研究所を創設してその所長となり，研究所の最初の事業として藤原官跡の発掘調査を指導，藤原官朝堂院の規模を明らかにして，のちの古代皇居跡研究の先鞭をつけた。社会的事業としては，聖徳太子奉讃会を設立して，太子の事業の宣揚と法隆寺の護持に努め，吉野神宮奉讃会を起して後醍醐天皇の聖徳の顕揚に尽くす。日光・高野山・醍醐寺などの宝物館もその指導によってできたものである。

芥川直木賞始1935=61歳：

二二六事件・1936=62歳：_*「更訂国史の研究」とセットで「更訂国史研究年表」を出版直後，国立の歴史博物館兼研究所(国史館)の創立構想が具体化する矢先，旅行の途次高崎市で脳溢血で倒れ，

日中戦争始・1937=63歳：

以来療養10年，

(国史館)も実現せず，

新憲法公布・1946=72歳：_回復しないまま，自宅で没した。